

## ヤマザクラ

2016 年(平成 28 年)4 月 20 日(水)発行

## 木工班の活動について

桑原敏和

木工班の紹介をします。

木工班は平成 24 年 10 月の発足で 3 年半が経過しました。  
毎月第 1, 3 火曜日の 9 時から午前中に実施しています。

当初は 6 人の参加者で世話役 2 人でしたが、今は人数が増えて 13 人の参加者に世話役 3 人の体制で運営しています。

その他に毎月第 3 日曜日の午後に実施する自由参加の数人がいます。  
活動場所は森の工房で、冬期間の寒い時には山荘内の大倉庫で行うこともあります。

木工機械は大小の帯鋸、自動カンナ、手押しカンナ、ボール盤、木工ろくろ、糸鋸 3 台、ベルトサンダー 2 台、丸鋸数台等が有り、主な工具類も人数分そろっています。

作成品目は当初はバターナイフ、箸(菜箸)、スノコ状鍋敷き、リース等の簡単なものに取り組んでいましたが、ここ 1 年前位からは男性はマガジンラック、ミニテーブル等のほぞ加工の必要な高度な物、女性はポリ袋取り出しラック等の生活密着型のユニークな物を作っています。

又、木工班の数人で、大人の各種団体の木工体験や小学校や幼稚園の木工クラフト作成の支援も行っています。

今年度には、安全に使用できる木工ろくろを購入する計画が有り、一度に複数の人は使用できませんが、お椀、ぐい飲み等を湯ノ岳産の間伐材を各種使用して自分なりのものを作れるように取り組みたいと考えています。

## 木工班活動・作品の一部

湯本第一幼稚園での木工クラフト教室(ペンダントの作品を胸に)



上:ポリ袋取り出しラック  
(女性作)  
下:ミニテーブル(男性作)



# 森林整備班の活動 桑原敏和

## 1. 森林整備班の定例活動一覧表 (2016.1~07.4)

月/日	曜	実施事項	参加
1/23	水	栗園跡地の下草刈	4
1/16	土	〃	3
1/20	水	〃	4
1/27	水	栗園跡地の下草刈・抜切・道路補修	6
2/3	水	山荘観察歩道安全対策(枯木伐倒)	5
2/6	土	工具・機械の整備と燃料調合	4
2/10	水	コナラ・クスギの玉切	6
2/17	水	コナラ・クスギの玉切・搬出	4
2/24	水	薪割	5
3/2	水	倒木(ストロープ松)の処理	4
3/5	土	コナラ・クスギの玉切(山荘入口)	5
3/9	水	チェソー整備と目立て	3
3/16	水	プロ野球の森整備(別記)	—
3/23	水	伐倒木枝のチップ処理(山荘入口)	4
3/30	水	シイタケ植菌	2
4/2	土	〃	2
4/6	水	山荘上の駐車整備(廃棄物の処分)	5
4/12	水	コナラ・クスギの玉切	4
4/16	土	山荘構内枯木伐倒、管理道路安全対策	3
活動 19 日	森林整備班活動延人数 73 人		



## 2. 海岸林の再生整備参加者数

松崎

(2016.1~3)

月日	整備内容	本会 トチギ	ボラン ティア	その 他	計
1/22	整備場所の測量	1	—	1	2
1/23	下刈り地拵え、 植樹	10	92	-	102
2/8	〃	5	6	-	11
3/3	〃	2	9	-	11
3/12	〃	3	17	-	20
3/13	〃	3	18	-	21
3/26	〃	2	7	-	9
	計	26	149	1	176



1/23 海岸林植樹スナッフ(東北電力の方々)



2/8 うつくしま 21 森林づくりネットワークの方々

### 目次 主な内容

P

木工班の活動について	桑原敏和	1
森林整備班の活動		2
森林整備班の定例活動		
海岸林再生整備参加者		
プロ野球の森の整備		
金成公園岩出の郷森林整備		3
森林づくり研修会		4
木工クラフト班の活動		4
農作業 2016 春の活動報告		5
プログラム勉強会グループ活動		5
小学校等における学習支援活動		
その他の活動		
研修会(非電化・藤村靖之先生、ひろしま 自然学校・志賀誠治氏、自然保護協会・時 田恵先生)		
ろうきん森の学校		7
開催日	1 平成 28 年 2 月 21 日	
	2 平成 28 年 3 月 20 日	
	3 平成 28 年 4 月 17 日	
ろうきん連合会自然体験活動		9
平成二八年度自然観察班活動計画		10
湯ノ岳山荘よりのお知らせ		10
山荘のリフォームについて		
湯ノ岳山荘の利用状況について		
平成 27 年度 うつくしま 21 森林づくり		
活動発表交流会		11
第十一回通常総会のご案内		12

### 3.プロ野球の森の整備

実施月日 平成28年3月16日(水)

整備内容 森の案内立て看板の設置

参加者 理事長他 計5名

森林に関する看板を観察歩道に6枚設置しました。内訳は、①森林のはたらき、②森林の土壌と働き、③間伐などの手入れはどうして必要なの？、④森の中の命のつながり、⑤土の中の生きもの、⑥里山の自然と人々のつながり、となります。



観察歩道沿いに設置された看板

これまで設置した4枚は①プロ野球の森で活動するにあたって、②「プロ野球の森 in いわき」について、③森のもつ8つのチカラ/森のための4つのアクション、④森と地球環境の関わり(地球環境を保全する上で森のチカラは欠かすことが出来ません)。

これら10枚の解りやすい看板が観察歩道沿いに設置されましたので、気軽に森を学ぶことが出来ると思います。

これでプロ野球の森の整備はほぼ完了となりました。(伊藤)



2011.12.4 いわきグリーンスタジアムに設置された看板と記念樹(アオダモ)、背景がプロ野球の森

### 金成公園岩出の郷森林整備

いわき金成公園里山づくり協議会(会長松崎和敬)では、平成28年2月20日(土)30名の参加者により午前9時から12時に「岩出の郷」の森林整備を実施しました。

整備内容は、株立ち整理や不良樹木の伐倒等を行い健全な里山をめざした作業を実施しました。併せて林床のカタクリの生育環境にも努めました。



このカタクリの写真は今年3/31のものです

参加者は本会員及びいわき金成公園里山づくり協議会会員・いわき市役所公園緑地課員の方30名が森林整備を楽しみました。

また、お昼には湯ノ岳山荘産きのこ汁がふるまわれました。(伊藤)



開会式



森林整備作業

## 森林づくり研修会

NPO 法人福島県緑の協力隊荒井賛・今井辰雄両氏による森林づくり研修会が平成 28 年 3 月 7 日（月）～8 日（火）に湯ノ岳山荘で開催され木田理事長他延 18 名が受講しました。

第 1 日目（3/7）午後からビデオにて今井氏より「居心地のよい里山づくりの伐採率は何%が良いか」をもとに里山の現状・森林の保全・健康や保養の森林について受講しました。伐採率について種々な評価の結果は樹木の材積の 50%が視界のバランスが良く最高の結果とのことでした。

荒井氏からは小学生向けのビデオ「大切な山をつくる林業を学ぼう」で指導をうけました。これは非常に解りやすく参考になるビデオでした。

その後現地に移動し、本会で将来進めようと計画しているスギ・カラマツ苗木の生産について現地で指導を受けました。

引き続き栗園跡地に移動今後の森林づくりについて指導をいただいた。



栗園跡地の森林づくりについてアドバイスを受ける

森林づくりについては樹木の目的に合った手入れが重要で長時間を要するものであり、人の手を入れた森林は目的が達成するまで責任を持つことであり、あとは野となれ山となれでは責任放棄である。

特に人工林は農産物を生産する田畑とおなじである事を強調されました。

植樹については、樹種の特徴等を見て芯となるものを残し目線下の枝を切り落とし育てるよう指導されました。これまでは活着すれば良としていた意識の大きな改革でした。

第 2 日目（3/8）山荘の観察フィールドに入り観察歩道や安全対策について指導を受けました。（伊藤）

## 木工クラフト班の活動 桑原敏和

### 木工クラフト班活動一覧表（1月～4月）

#### I グループ（定例活動；毎週火曜日）

（第 2 と第 4 火曜日に工房で実施）

No	月 / 日	曜	木工クラフト 実施事項	参加人数
1	1/5	火	男性：ミニテーブル製材 女性：どんぐりストラップ	16
2	1/19	火	男性：ミニテーブル 女性：マガジンラック製材	16
3	2/2	火	男性：ミオニテーブル 女性：マガジンラック	16
4	2/16	火	男性：ミオニテーブル 女性：マガジンラック	16
5	3/1	火	男性：ミオニテーブル 女性：クラフト用部品切り	16
6	3/15	火	男性：額縁材（桧）製材 女性：作製品の計画	16
7	4/5	火	男性：額縁 女性：書類トレイ	14
8	4/19	火	男性：額縁 女性：書類トレイ	14
活動 6 日			参加延人数 124 人	



ミニテーブル（ノミでほぞ開け作業）

#### II グループ（第 3 日曜日）希望者

（ろうきん森の学校終了後に実施）

No	月 / 日	曜	木工クラフト 実施事項	参加人数
1	2/21	日	すりこ木棒（4本）	3
活動日 1 日			（1.3 月は希望者無し） 参加者 3 名	

## 農作業 2016 年春の活動報告 (太田)

### 1. 年初め、畑の寒起こしと籾殻投入作業

今年も仕事始めとして、畑の寒起こし作業を行いました。スコップで起こした合計の面積は昨年同様、約300坪。



1/25 寒起こし

### 2. 落ち葉かきと温床作り&堆肥作り

昨年同様、湯の岳山荘奥の観察道を中心に落ち葉の収集を行いました。軽トラで大きな網袋に入れた落ち葉を笠石の畑まで運搬。(1/9、1/11、2/27)



1/11 落ち葉堆肥作り

### 2. 春の植え付け作業など



3/21 じゃが芋植え付け作業

### 3. その他

- 1) ハウス内に埋めて保存していた種イモ用の里芋を掘り起こしました。
- 2) 畑に隣接している竹林が繁茂してきたので、伐採整備作業をしました。
- 3) 春先から、周辺地区でイノシシの侵入があるようですが、笠石地区はいまのところ被害なし。

## プログラム勉強会グループの活動

佐藤 烈

この四半期は次のとおり9回の総合学習の支援を行いました。

### 1 小学校等における学習支援活動 (1/1~3/31)

月日	小学校	学年	学習	参加者	支援者
1/21	川部小	4	総合学習	25	7
1/25	川部小	4	総合学習	25	5
1/28	平6小	3	総合学習	37	10
2/4	中央台北	4	総合学習	68	10
2/18	平6小	3	総合学習	37	10
2/19	錦東小	3	総合学習	24	6
2/26	中央台北	4	総合学習	68	5
3/3	錦東小	3	総合学習	24	6
3/10	中央台北	4	総合学習	68	8
計	学習支援4校、活動日延9日			376	67

以下に1/21と1/25の川部小の総合学習支援と3/10の中央台北小の総合学習支援の例を紹介します。

年が明けてすぐに川部小学校から4年生の総合学習「身近な川を調べてみよう」のテーマで支援を求められました。内容は近くの四時川の水生生物や理化学検査をしたいとのことでした。

寒い時期に児童を外に連れ出すことそれにこの時期水生生物が見つかるかなど心配がありましたが、事前調査で水生生物はまだ小さいながらもいることから、外での作業時間をできるだけ短くするような方法を工夫して実施することにしました。

1/21は独自に作成した調査用紙を使用し現場で河川のようにすを記録し、採水し、水生生物は採取して容器に入れ、教室で同定をすることにしました。理化学検査も教室で行いました。



学校近くの川原で石についた生き物を探しました。

1/25は、四時川上流からそれが合流する鮫川河口までの砂に注目した内容の支援を行いました。

川の調査というとにかく水に注目したものがほとんどのようですが、水生生物は水の中にいるというよりは川底の砂や石に住み着いています。その意味でそのすみかに着目するのは当然のことです。砂の粗さや砂鉄探し、あるいはどの砂が鳴くのかなどの実験をしました。



生き物をバットに移し、種類ごとに分けます。その後”水質と指標生物”の写真と比べ、名前と数を調べました。

3/10 には中央台北小学校の総合学習のオプションメニューとして今年初めて木工クラフトを行ってみました。木工クラフトというと幼児、小学校低学年が主な対象と考えていましたが、実際に行ってみると熱中するし、年齢が高いだけあって面白いもの、立体的に複雑な物を作るなど、今後もっと展開できる可能性を感じました。

## 2 その他の活動 (1~3月)

(1) いわき明星大学の学校林の管理及び整備

1月：11、19、22、25 支援者延 8名

2月：1、9、15、22 支援者延 8名

3月：1、7、14、24 支援者延 12名

## 3つの研修会が行われました

いわきの森に親しむ会の27年度の事業もほぼ終了した1月から3月の四半期ですが、この比較的忙しくない時期に次の3つの研修会が開かれました

### ① 藤村靖之博士の講演

昨年12月7日月曜日に8名の会員で那須塩原市にある「非電化工房」を見学し、藤村靖之さんから電気に頼りすぎないライフスタイルのお話しと実践についてお聞きしましたが、その後多くの会員に、これまでの活動や生き方について知ってもらうことと湯ノ岳山荘のフィールドにおいて非電化工房における取組の可能性について検討してもらおうと、今年1月31日(日)から2月1日にかけて湯ノ岳山荘にお招きしました。

31日は非電化工房で藤村氏が何を考え、そして何をしているかについての話を、またお弟子さんたちが実践している月3万円ビジネスの話などをお聞きしました。話の後の質問でバイオトイレの話が出て、この話題でだいぶ盛り上がっていました。翌日は、午前中ご夫妻と山荘の散策路を歩きながら当会の活動を説明しアドバイスをいただきました。参加者は1/31が21名・2/1が6名でした。



2/1 藤村先生ご夫妻を山荘フィールドを案内アドバイスを受けた後ろうきん森の学校入口で記念写真

### ② 志賀誠治氏の講演

志賀誠治さんは、NPO法人ひろしま自然学校の代表理事として、ろうきん森の学校の3つのうちのひとつ広島で中心となって活動されてきた方です。

今回は10年間の広島の活動をお聴きするとともに後で詳しく説明するアースキーパーにおけるアクティビティやスキルを学ぶためお呼びしました。

3月3日(木)午後2時から広島での10年間の活動例えば活動フィールドの整備や市民参加の工夫などのお話の後、アースキーパーのお話しでした。

アースキーパーとは何かというとアメリカで作られた環境教育プログラムだとのことです。

このプログラムはグレードが数段階あり、翻訳もされていないことから、日本で実施しているのは広島の志賀さんだけだそうです。

それでも各段階の英文のプログラムを翻訳し、日本にあわせた具体的なアクティビティを作るのは大変な作業で、現在まで下から2段階のプログラムの翻訳をし、実際にある小学校の5年生そして翌年度の6年生対象に実践した後は、諸般の事情で具体的な活動は止まっているとのことでした。

これらのお話しの最後に環境教育の中で必要なものは(1)理解してもらう、(2)環境に対して愛情を持ってもらう、(3)環境への負荷を減らす行動ができる、の3点であることを話してました。

この内容は、まさしく環境省の進めるESDの目的と同じです。

3月4日(金)の朝は体験学習法の重要性やその進め方としてのプログラム、そのプログラムを構成するアクティビティ、それにプログラムデザイン(つかみ、本体、まとめ)についての解説をしてもらった後、前日と早朝に下見した山荘周囲でつかみ、や「10タッチ」、「森の妖精探し」、「リーフスライド」などのアクティビティの実習をしました。午後は、これから東京で環境省の事業であるESDプログラムの実証事業の評価委員としての会議に出なくてはならないとのことで早くにお帰りになりました。

### ③ 時田 恵先生の研修

3月12日(土)と3月13日(日)は山梨県で高校教師をされている時田 恵先生をお迎えし、自然観察会のガイドの研修を行いました。

時田先生はここ数年当会の研修会で講師を務めてくださっているのです、多くの会員がなじみのある先生です。

研修内容も昨年度に続き、野外観察・活動の中でどんなものに注目させるか、何を感じさせるかなどそのとっかかりのスキルやアクティビティについて実際に山荘のコースの中で実演するものです

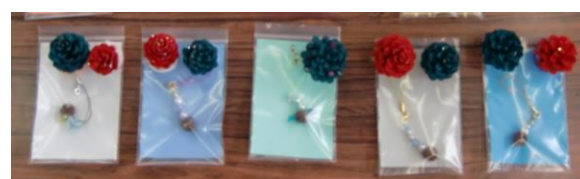


時田先生とこれから始まる野外観察研修参加者

3月12日の午前は広場で海の方に向かい見える景色の第一印象を皆に言わせることから始まり、足元にたくさん咲いているオオイヌノフグリを素材に花の形、その開き方、実の形と数、その繁殖戦略などを推測してみたりしました。午後は、山荘の手前で緑色した木を探したり、



時田先生作イラストを活用した詳細な観察手法を学ぶ水色を色々な葉にかけてどうなるか見てみたり、葉に固いもので文字を書いてみたりしました。その後松ぼっくりの葉の香りをかぎ、実を拾い、その帰り道松ぼっくりも拾い、山荘へ戻ってそれを使ってクラフトをしました。



松ぼっくりのクラフト研修スナップと作品

翌13日は、つくし探しから始まりました。まずはヒントなしで探させる。見つからなければ、近くに水気があるところを探すというヒントを出しもう一度探させる。見つけたところで先端にまとまってついている胞子について手づくりの模型を使って話し、その後その栄養体であるスギナの話がありました。

また、松葉を針に、葉を布に見立てて、葉をつなげた造形物をつくったり、カメレオンゲームをしたりしました。

遊びの要素を取り入れることで、参加者が自然の中での活動をリラックスして楽しみ、そして今まで以上に新しい発見に素直に感動し、自然の不思議について自発的に考えるようになるきっかけができる可能性があると感じました。

## ろうきん森の学校

若森秀樹

(平成 28 年 2 月 21 日～4 月 17 日)

### I.平成 28 年 2 月 21 日 (日) (天候晴)

#### 1.実施内容

①自然観察会、②森の手入れ体験、③野外料理

#### 2.参加者 27 名

#### 3.実施結果

##### ①自然観察会

昨日は雨でしたが当日は日差しは暖くすがすがしい天気の中、春を満期した観察会でした。春の訪れ、シュンランのつぼみやコケの胞子を虫眼鏡で観察しました。そして招かざる春！花粉症の犯人杉花粉のもと雄花を観察しました。



シュンランと杉の雄花の観察(花粉が飛び始めている)

##### ②森の手入れ体験

杉の枝打ちを体験しました。林床が暗かった杉林はすっきり明るい森林になりました。



杉の枝打ち作業体験

##### ③食事会

キノコを主にした料理と、太陽熱を利用したソーラークッカーで焼いた目玉焼き料理をいただきました。

### II・平成 28 年 3 月 20 日 (日) (天候晴)

#### 1.実施内容

①自然観察会、②キノコの植菌体験、③野外料理

#### 2.参加者 26 名

#### 3.実施結果

##### ①自然観察会

今回はグループに別れゲーム方式でロゼットをもつ草の観察でした。フキノトウ、キジムシロの花も観察できました。



各グループに別れロゼット探しに

##### ②キノコの植菌体験、

ホダギの穴開けから菌の染みたダボを打ち、ホダギの仮伏せまでとシイタケの植菌栽培までを体験しました。



参加者のイタケの植菌体験

##### ③野外料理

キノコや春の山菜(フキノトウ等)天ぷら料理でした。いつもながら美味しく和やかな食事です。



いつもの和やかな食事風景。



### Ⅲ・平成 28 年 4 月 17 日（日）（天候曇小雨）

#### 1.実施内容

①自然観察会、②山菜の勉強会③野外料理

2.参加者 27 名

#### 3.実施結果

##### ①自然観察会（山菜の観察と採取）

山荘周辺を二手に分けて自然観察を実施しました。まず毒草（樹木）を知る事を重点にしました。観察及び採取した山菜は下記の通り。

食:タラノメ、トキ(ツリガネニンジン)、ヨモギ、ミツバアケビ、リョウブ、サンショウ、椿の花、野生化したカラシナ、カラスノエンドウ、ドクダミ、タンポポ、アザミ、ワラビ、ヤマザクラの葉、ウクボギ、ツクシ。

毒:アセビ、ヤマウルシ。(注意植物として確認)

採取場所は、草刈場所や山荘での管理場所です。



タラノメはトゲを注意して採取



採取した山菜を分類再確認し調理へ

##### ②野外料理

お昼にはタケノコご飯・新ワカメの味噌汁。山菜の天ぷら等々山の恵みと少しの海の恵みを頂きました。



皆で山の恵みに感謝して頂きました。

### ろうきん連合会

## 自然体験活動

ろうきん連合会では、ご家族連れを含め 14 名の方が湯ノ岳山荘で、平成 28 年 2 月 27 日（土）～28 日（日）にて自然体験活動を実施されました。本会員も一緒に楽しみながら支援致しました。

2/27（土）自然観察会、広葉樹林の間伐や抜切り、木工クラフト、親子での丸太切等で春の自然の中で楽しみました。



広葉樹林の間伐体験



大鋸で丸太切に挑戦



木工クラフト体験

2/28（日）本会で森林づくりをしている栗園跡地へイロハモミジの植樹と新舞子の海岸林再生にクロマツを植樹して頂きました。（伊藤）

## 平成 28 年度自然観察班活動計画

佐藤幸二

月/日	曜	名 称	場 所 (公園)	責任者 ○リーダー	備 考 (募集人数等)
4/24	日	春の自然観察会	21 世紀の森公園 (冒険ゾーン)	○鈴木 (正) 佐藤 (幸)	
7/30	土	夜の生き物観察会	いわき公園	○鈴木 (勤) 津崎	
10/29	土	竹材教室 バランストーンボ作り	湯ノ岳山荘	○佐藤 (行)	
11/27	日	秋の自然観察会 落ち葉のカレンダー作り	湯ノ岳山荘	○猪村 佐藤 (幸)	
12/25	日	木工教室 ミニ門松作り	湯ノ岳山荘	○桑原	
2/12	日	草木染教室	湯ノ岳山荘	○佐藤 (烈)	
6/26	日	常緑樹の森の観察会		○古川 深瀬	

\*参加希望者は、募集人数や実施内容等は追って示されますので確認の上参加下さい。

\*連絡先は湯ノ岳山荘まで。

## 湯ノ岳山荘よりのお知らせ

### 1.山荘のリフォームについて

山荘のリフォーム情報についてお知らせします。

宿泊施設の長年の念願であったトイレが洋式に改修されましたのでお知らせ致します。

ただ残念ながら洗浄装置設置は次年度以降となる見込みです。

その他これまで、林さんは宿直室壁の塗装を完了。木田理事長が中心となり大広間の壁紙・襖の貼り換えが行われ見違える部屋になりましたのでお知らせ致します。山荘にお出かけの節にはご覧ください。

現在は、山荘当番者は林さんの塗装技術の指導を受けてバンガローの手すり等の防腐剤を塗装中です。

また、林さんが中心となり林業研修センター階段のカーペットを張替作業中です。

しばらくの間ご不便をおかけしますがご協力お願い致します。



襖の貼り換え写真 貼り換え前

貼り換え後

## 2.湯ノ岳山荘の利用状況について

池野上幸弘

山荘の利用状況をご報告します。

平成 27 年度の山荘利用者数は 3,775 名でした。東日本大震災より 5 年を経過しましたがようやく震災前の利用者数を超えるようになりました。

### 利用実態

(1) 宿泊者等：震災発生年度は、各地からのボランティアの方々の宿泊施設として多くの皆さんに利用されましたが、ボランティア活動の減少と共に利用者数も減ってきましたが、平成 26 年度より増加傾向にあります。

(2) バンガロー利用者：施設の陳腐化から減少傾向です。平成 27 年度は大学生の合宿勉強会の場所として山荘が利用され、山荘和室宿泊で対応できない学生の皆さんがバンガロー宿泊をされたので利用者数が増加しました。

(3) 広場利用者：屋外の活動が主となる利用者は幼稚園や学校行事での子供達が多いのですが、行事自体が少なくなっているため子供達の利用が減っています。

(4) 研修室：各種の講習会会場として利用されるようになっています。

### 平成 27 年度山荘利用者数実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
宿泊等	51	102	56	89	161	229	88	100	31	42	68	241	1,258
バンガロー					63	55	15	8				6	147
広場	24	26	175	22	79	31	125	43					525
研修室	110	100	224	157	53	137	237	259	243	132	138	55	1,845
計	185	228	455	268	356	452	465	410	274	174	206	302	3,775

### 山荘利用者年度別実績

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
宿泊等	846	1,315	995	979	1,227	1,258
バンガロー	151	111	124	46	20	147
広場	826	173	600	564	486	525
研修室	1,672	1,350	878	952	1,206	1,845

#### 平成 27 年度

### うつくしま 21 森林づくり

#### 活動発表交流会

(伊藤)

藤)

うつくしま 21 森林づくりネットワーク（会長 渡邊一夫）主催の活動発表交流会が平成 28 年 2 月 7 日（日）～8 日（月）にいわき市林業研修センター湯ノ岳山荘で開催されました。

第 1 日（2/7）は午後 2 時から 13 団体 28 名参加され開催されました。

活動発表会に先立ってフクシマ環境未来基地代表 塚本竜也さまから昨年 6 月 12 日（金）～14 日（日）「森林と市民を結ぶ全国の集い 2013in 福島」の活動経過報告がありました。

森林づくり活動発表会では、

(1) 復活した「木もれびのさす里山」について 県南 木もれび倶楽部会長山本光子さま。

(2) 「自然再生エネルギーと森づくり活動について」、美しい背あぶりの森を創る会渡部正幸さま。

(3) 「緑の協力隊のこれまでの活動について」NPO 法人 福島県緑の協力隊 副理事長 今井辰雄さま。

(4) 「いわき市三和町における森林ボランティアを入口とした若者たちの地域づくり活動について」フクシマ環境未来基地 本宮滉也さまとそれぞれ発表されました。

○本会からは「栗園跡地と海岸防災林の再生整備の取組みについて」松崎副理事長から発表されました。



参加者の記念写真

発表会後は、夕食・交流会が開催され参加者同士の交流及び親睦を深める事ができました。

第2日(2/8)は、新舞子海岸へ移動し海岸林再生整備活動を実施しました。

主な活動は、地拵・植樹箇所のマーキング・黒松の植樹等を実施し午前11時30分現地解散となりました。



海岸林再生整備を終えて

以上平成27年度うつくしま21森林づくり活動発表交流会の実施内容を記載致しました。

#### 交流会参加団体

本会。福島県森林保全課・いわき、県北、県中農林事務所。  
NPO ふるさと森林の会。NPO 福島県緑の協力隊。福島県森林インストラクターの会。NPO 福島県もりの案内人の会。美しい背あぶりの森をつくる会。  
NPO 県南、こもれび倶楽部。フクシマ環境未来。  
(公)福島県森林・林業・緑化協会。

## お知らせ

### 第十二回通常総会の案内

#### 一 開催日時

平成二十八年六月十八日(土)

午後二時～

#### 二 会場

湯ノ岳山荘 研修室

右の通り総会を開催致しますので多くの皆様のご出席をお待ちしております。

### 編集後記

私は、今回の会報17号の編集が最終となります。

会報の発行は、会の活動の結果を会員の方々にお知らせすることと、情報の共有を主な目的として編集作業をしてみました。

しかし、これまで会報の記事に誤字や脱字そして記載内容の誤り等があり満足した紙面はありませんでした。それにも拘わらず皆様には大目に見て頂き大変有難うございました。

今は、情報の発信や共有についてはインターネットが大きな力を持っております。

でも、私は残念ながら携帯電話もパソコンも使いこなせる技術技能がありません。今後本会の情報発信等にはホームページ等インターネットの活用が重要であることは間違いありません。

そこで、パソコンの知識や活用等の優れた方に編集担当をお願いしました。

次回から編集担当を鈴木小百合さんが行いますので宜しくお願い致します。皆様のご協力を重ねてお願い致します。

これまで大変お世話になりましたありがとうございました。厚く御礼申し上げます。(伊藤)

(発行)NPO 法人いわきの森に親しむ会  
(発行責任者)木田章一(編集担当者)伊藤貞夫  
(事務局)〒972-8326 いわき市常磐藤原町湯ノ岳2  
湯ノ岳山荘内  
TEL/FAX 0246-44-3273  
E-mail:yunodake@gray.plala.or.jp  
HP:http://iwaki-mori.Jimdo.com/